

■作品を鑑賞した人に何を感じて
もらいたいですか？

芸術は生活に絶対欠かすことのできないものではありませんが、追いかける日常からいつとき離れて、心に余裕を感じさせてくれるものではないでしょうか。例えば、つらい時などに好きな音楽を聴くと、癒やされたり、心地よいものを感じたりして力がわいてくることもあるでしょう。私は日常から離れた「非日常」に心のゆとりがあると考えています。作品を眺めるといふ非日常の中にホッとできる瞬間を感じてもらいたいと思っています。

■抽象的な作品は説明を受けない
と理解するのが難しそうですが、

人それぞれに感じ方が違います。決まった答えなどありません。また、理解しにくいという理由の一つに、作品に触れる機会が少ないことが挙げられます。音楽でも、数多くの曲を聴くことにより、自分なりにイメージを膨らませることができるようになってきます。大切なのは作品に触れる機会を多く持つこと。そうすることで、自分自身の感受性が高まり、感じ方に広がりが出てくると思います。

※今回の取材は、中橋修展『内包』^{ないほう}を開催した会場で行いました：GALLERY 門馬・ANNEX^{ギャラリーもんま アネックス}（中央区旭ヶ丘2）



さいとう まな 齊藤茉奈さん（左）。やまかわ みずほ 山川瑞穂さん。北海道札幌北陵高等学校2年生。生徒会に所属し、広報活動に関心が高く、今回同行記者として取材を行ってくれました。

■最後に、芸術とは何ですか？

つくる側にとっては、自分自身を思い切り表現できる場であり、また受ける側にとっては新たな刺激となり、何かを発見する場にもなる一種の対話だと思います。繰り返しになりますが、芸術とは心ゆとりを生み出すものなのです。「北区のアーティスト展」を通じて、気軽に芸術に触れてもらえたらうれしいです。

■芸術家との対談。経験したことのない機会に同行記者の二人は「作品一つ一つに込められた思いや考えが伝わり、良い体験になりました」「あらためて芸術に興味を持ちました」などと笑顔で取材を振り返っていました。

第8回

北区のアーティスト展

11月18日(土)~24日(金)

午前9時~午後5時

会場：札幌サンプラザ(北区北24西5)

今回、紙面でご紹介しました中橋さんをはじめ、区内に在住し活躍している芸術家の作品を展示します。多くの方々のご来場をお待ちしております。

問い合わせ先：北区民センター ☎ 757-3511